

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1.5年制)		科目区分	応用分野	授業の方法	講義
科目名	問題集(中上級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時間	前期	教室名	501教室
担当教員	松下 修	実務経験と その関連資格	【松下】2013年日本語教員養成講座を修了。3年間、日本語教育機関での入管申請業務及び生活指導に従事。			
《授業科目における学習内容》						
N4からの復習を入れながらN3、N2の問題を数多く当たる。7月の日本語能力試験N2合格を目指し、文字・語彙、文法、読解、聴解の問題を数多くこなしていく。能力試験では選択肢があるが、N2レベルまでは漢字の読み書き、読解の解答では、それに頼らず、自分で記述できるような力もつけ、将来の就職を見据えての力をつける。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験: 70 % 2. 出席率 : 20 % 3. 平常点 : 10 %						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
日本語能力試験対策問題集、模擬試験 『日本語能力試験対策N2、N3文法』(三修社)『ドリル&ドリルN2、N3』(ユニコム)『JLPT直前対策N2、N3』(国書刊行会) 日本留学試験過去問題(凡人社)などから抜粋、オリジナルハンドアウト使用。						
《授業外における学習方法》						
復習をしっかりとすること。N2の文法を覚えるだけでは、運用力はつきません。N4、N3レベルのわからない文法があれば、復習をしてください。						
《履修に当たっての留意点》						
選択肢がなくても自分で答えを導き出せるようになってください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N3レベルの復習	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。	
		各コマにおける授業予定	N3文法、文字・語彙			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N3レベルの復習	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。	
		各コマにおける授業予定	N3文法、読解			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N3レベルの復習	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。	
		各コマにおける授業予定	N3文法、聴解			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N2レベルの日本語力を修得する。	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。	
		各コマにおける授業予定	N2文法、文字・語彙(1)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N2レベルの日本語力を修得する。	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。	
		各コマにおける授業予定	N2文法、読解(1)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N2レベルの日本語力を修得する。	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。
		各コマにおける授業予定	N3文法、聴解(1)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N2レベルの日本語力を修得する。	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。
		各コマにおける授業予定	N2文法、文字・語彙(2)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N2レベルの日本語力を修得する。	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。
		各コマにおける授業予定	N2文法、読解(2)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N2レベルの日本語力を修得する。	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。
		各コマにおける授業予定	N3文法、聴解(2)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N2レベルの日本語力を修得する。	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。
		各コマにおける授業予定	N2文法、文字・語彙(3)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N2レベルの日本語力を修得する。	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。
		各コマにおける授業予定	N2文法、読解(3)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N2レベルの日本語力を修得する。	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。
		各コマにおける授業予定	N3文法、聴解(3)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N2レベルの日本語力を修得する。	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。
		各コマにおける授業予定	N2文法、文字・語彙(4)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N2レベルの日本語力を修得する。	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。
		各コマにおける授業予定	N2文法、読解(4)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N2レベルの日本語力を修得する。	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。
		各コマにおける授業予定	N3文法、聴解(4)		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1.5年制)		科目区分	応用分野	授業の方法	講義
科目名	問題集(中上級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	501教室
担当教員	松下 修	実務経験と その関連資格	【松下】2013年日本語教員養成講座を修了。3年間、日本語教育機関での入管申請業務及び生活指導に従事。			
《授業科目における学習内容》						
N4からの復習を入れながらN3、N2の問題を数多く当たる。7月の日本語能力試験N2合格を目指し、文字・語彙、文法、読解、聴解の問題を数多くこなしていく。能力試験では選択肢があるが、N2レベルまでは漢字の読み書き、読解の解答では、それに頼らず、自分で記述できるような力もつけ、将来の就職を見据えての力をつける。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験: 70 % 2. 出席率 : 20 % 3. 平常点 : 10 %						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
日本語能力試験対策問題集、模擬試験 『日本語能力試験対策N2、N3文法』(三修社)『ドリル&ドリルN2、N3』(ユニコム)『JLPT直前対策N2、N3』(国書刊行会) 日本留学試験過去問題(凡人社)などから抜粋、オリジナルハンドアウト使用。						
《授業外における学習方法》						
復習をしっかりとすること。N2の文法を覚えるだけでは、運用力はつきません。N4、N3レベルのわからない文法があれば、復習をしてください。						
《履修に当たっての留意点》						
選択肢がなくても自分で答えを導き出せるようになってください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N1への橋渡しと日本留学試験対策	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。	
		各コマにおける授業予定	N2文法、聴解・超読解(1)			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N1への橋渡しと日本留学試験対策	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。	
		各コマにおける授業予定	N2文法、読解(1)			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N1への橋渡しと日本留学試験対策	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。	
		各コマにおける授業予定	N3文法、聴解・超読解(2)			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N2レベルの橋渡しと日本留学試験対策	使用教材から適宜抜粋	間違えた箇所の確認をすること。	
		各コマにおける授業予定	N2文法、読解(2)			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	理解度を見る	使用教材から適宜抜粋		
		各コマにおける授業予定	模擬試験の実施とフィードバック			